

H I V 遺族実態調査検討会

報告書

平成 2 4 年 5 月

H I V 遺族実態調査検討会

(財団法人 友愛福祉財団 実施事業)

目 次

H I V遺族実態調査検討会 構成員名簿（平成 23 年度）	2
H I V遺族実態調査検討会 検討の経過.....	3
HIV 遺族健診受診支援事業 試行実施結果等報告.....	6
平成 23 年度 HIV 遺族健診受診支援 試行実施の概要.....	7
1 実施の枠組み.....	7
2 実施結果.....	9
【参考 1】平成 23 年度 健診受診支援の流れ（東京、大阪） ...	11
【参考 2】平成 23 年度 健診受診支援における情報管理.....	12
【参考 3】平成 23 年度 受診支援記録一覧.....	13
HIV 感染被害者遺族のための健康診断受診支援ガイドライン（案）	22

H I V遺族実態調査検討会 構成員名簿（平成 23 年度）

小 澤 温	筑波大学大学院人間総合科学研究科教授
金 吉 晴	（独）国立精神・神経医療研究センター精神保健研究所 成人精神保健研究部長 （座長）
後 藤 京 子	東京H I V訴訟原告団 遺族
小 西 恵	大阪H I V訴訟原告団 遺族
中 島 聡 美	（独）国立精神・神経医療研究センター精神保健研究所 成人精神保健研究部犯罪被害者等支援研究室長
仁 科 豊	東京H I V訴訟弁護団 弁護士
松 本 康 之	大阪H I V訴訟弁護団 弁護士
村 上 典 子	神戸赤十字病院心療内科部長
山 本 耕 平	立命館大学産業社会学部・社会学研究科教授

（五十音順、敬称略）

H I V 遺族実態調査検討会 検討の経過

(1) 平成8年のH I V訴訟和解後、国の補助により財団法人友愛福祉財団が実施する血液製剤によるエイズ患者遺族等のための相談事業（以下「相談事業」という。）においては、各種調査や遺族の要望等を踏まえ、遺族の身体面・精神面の健康を支援するための対策が順次拡充されてきた。

(2) こうした中、平成20年5月の原告団と厚生労働大臣の定期協議において、遺族から、高齢化や病気等により相談事業の利用が難しい遺族も見られる等の指摘があったことを踏まえ、「遺族への支援については、和解の枠組みにとらわれず、特に相談事業に参加できない遺族や遺族の高齢化などの現状を踏まえて、PTSD等の医療や奨学金についての支援などを早急に検討していく」こととされた。

(3) この定期協議の結果を受け、財団法人友愛福祉財団が厚生労働省の補助を受けて実施する事業として、平成22年7月に「HIV 遺族実態調査検討会」が設置された。

当検討会では、遺族の生活、健康、その他遺族を取り巻く環境について実態把握を行うため、「HIV 感染被害者遺族実態調査」の調査設計について検討を行った。同調査は平成22年12月に実施され、その結果は「HIV 感染被害者遺族実態調査報告書」（平成23年6月）にとりまとめられた。

この調査結果から、遺族の身体面・精神面の健康度が全般に低いこと等が明らかになった。

(4) 上記の調査結果を踏まえ、高齢や病気等により相談事業の利用が難しい遺族に対しても効果的な支援方策として、遺族への支援体制がある医療機関で健康診断の受診支援を行い、併せて遺族が潜在的に抱えている心理的な問題を専門家が把握することにより、遺族の心身の不調の改善につなげる取組（HIV 遺族健診受診支援事業）が、東京・大阪両原告団の全面的な協力を得て、平成23年度に試行的に実施された。

本報告書では、この試行事業の実施結果をとりまとめるとともに、平成24年度以降の事業の本格実施に向けて、事業実施のためのガイドライン案をあわせて提示する。

(5) HIV 遺族健診受診支援事業については、試行実施を通じ、今まで相談事業等に参加しな

かった遺族とのつながりができた例も検討会で報告された。

今後のさらなる周知等について課題を残すものの、本事業によって一定の効果があるものと考えられる。

今後、関係者が本報告を活用して、効果的に遺族に対する支援が行われることが望まれる。

なお、本報告書を取りまとめるに当たり、一部の構成員から、別紙の提言がなされた。今後も引き続き、遺族をめぐる様々な課題について、機会を捉えて検討することが望まれる。

（別紙）構成員からの提言

松本 康之

小西 恵

そもそも本検討会の目的は、従来の相談事業に参加し得なかった遺族に対する支援の方法を探ることであった。そのために改めて遺族実態調査が実施された結果、中間報告書でも明らかになった通り、創設を希望する遺族支援制度として、六割以上の多数が「遺族年金等の給付」を挙げている。

試行実施から本事業化に向かいつつある健康診断受診支援は、一定の遺族支援の機能を果たしていると評価し得るものの、調査への回答に現われた遺族の想いに十分に即し得た内容ではないことは、残念ながら明らかである。

本検討会として、この事実を踏まえ、遺族が直面する残された諸課題について、引き続き検討し、遺族の希求に即した現実的・具体的な施策の実現を目指すことを提言する。

H I V 遺族健診受診支援事業 試行実施結果等報告

平成23年度 HIV 遺族健診受診支援 試行実施の概要

1 実施の枠組み

(1) 実施概要

平成22年度に行われた「HIV 感染被害者遺族実態調査」により、HIV 感染被害者遺族の身体面・精神面の健康度が全般に低いこと等が明らかになったことを踏まえ、遺族に対する健康診断受診支援を試行的に実施する。

- HIV 感染被害者遺族が安心して健康診断を受診できるよう、遺族への支援体制がある医療機関において健康診断を実施する。
- 遺族が抱えている健康上の問題や心理的な問題等を把握し、適切な対応に結びつけるため、専門家（精神保健福祉士、臨床心理士等）や医療機関コーディネータース（CN）による事前説明、健診への同行、健診後のフォローアップ等の支援を実施。

(2) 健診受診支援の実施方法

ア 対象者

遺族（被害者の配偶者、子、父母、兄弟姉妹）10～20人程度

イ 健診の実施場所

- ・ 独立行政法人国立国際医療研究センター病院 エイズ治療・研究開発センター（ACC）（東京）
- ・ 独立行政法人国立病院機構大阪医療センター（大阪）

ウ 健診の内容

身体面の健康診断に、専門家（臨床心理士、精神保健福祉士等）による面談を付加。

エ 受診支援の流れ

① 事前説明

- ・ 相談員（専門家を含む）が、訪問、面談又は電話により、健診支援の趣旨や内容等について説明を行うとともに、遺族の状況等を把握。

② 健康診断の受診

- ・ 原則として専門家が健診への同行・面談を行い、遺族が抱えている心理的な問題等を把握。

③ 事後フォローアップ

- ・ 専門家が、遺族の受診後の状況に応じ、適切な対応に結びつける。

オ 受診支援を行う専門家

精神保健福祉士、臨床心理士等（健康相談を現在担当している者を含む。）が支援を実施。

カ 健診受診者の費用負担

健診費用及び受診者本人の交通費について、予算の範囲内で研究会経費として負担。

（３）研究の進め方

- ① 試行実施に係る要領素案を作成。
- ② 専門家に必要に応じて研修を実施した上、各事例について健診受診支援を行い、専門家及び医療機関が各事例の経過等を記録。
- ③ 受診支援の終了後、②の結果及び専門家、医療機関、原告団等の意見を踏まえ、健診受診支援ガイドライン案を作成。
- ④ ③の案を検討会において検討の上、ガイドラインをとりまとめ。

（４）事業実施に係る事務処理

友愛福祉財団が、原告団等及び厚労省医薬品副作用被害対策室の協力を得て実施。

2 実施結果

(1) 事業全体の流れ

【参考1】（健診受診支援の流れ）のとおり。

(2) 受診支援の際に作成された文書の情報管理

【参考2】（健診受診支援事業の情報管理）のとおり。

(3) 受診者の概況

※受診者ごとの実施結果は【参考3】（受診支援記録一覧）を参照

ア 受診時期

平成23年9月～平成24年3月

イ 受診者数

24人（東京8人、大阪16人）

ウ 受診者の属性

- ・ 性別 男性4人、女性20人
- ・ 年齢 50～59歳 2人
60～69歳 18人
70～79歳 3人
80歳以上 1人
- ・ 被害者との関係
父 3人
母 15人
妻 3人
兄弟姉妹 3人

エ 受診の動機（M. A.）

- ・ 案内を見たため/最近検診を受けていないから 15人
- ・ 交流会・相談員からの薦め 5人
- ・ 身体面の不安がある 10人
- ・ 精神面の不安がある 2人

- ・ 安心できる病院だから 8人

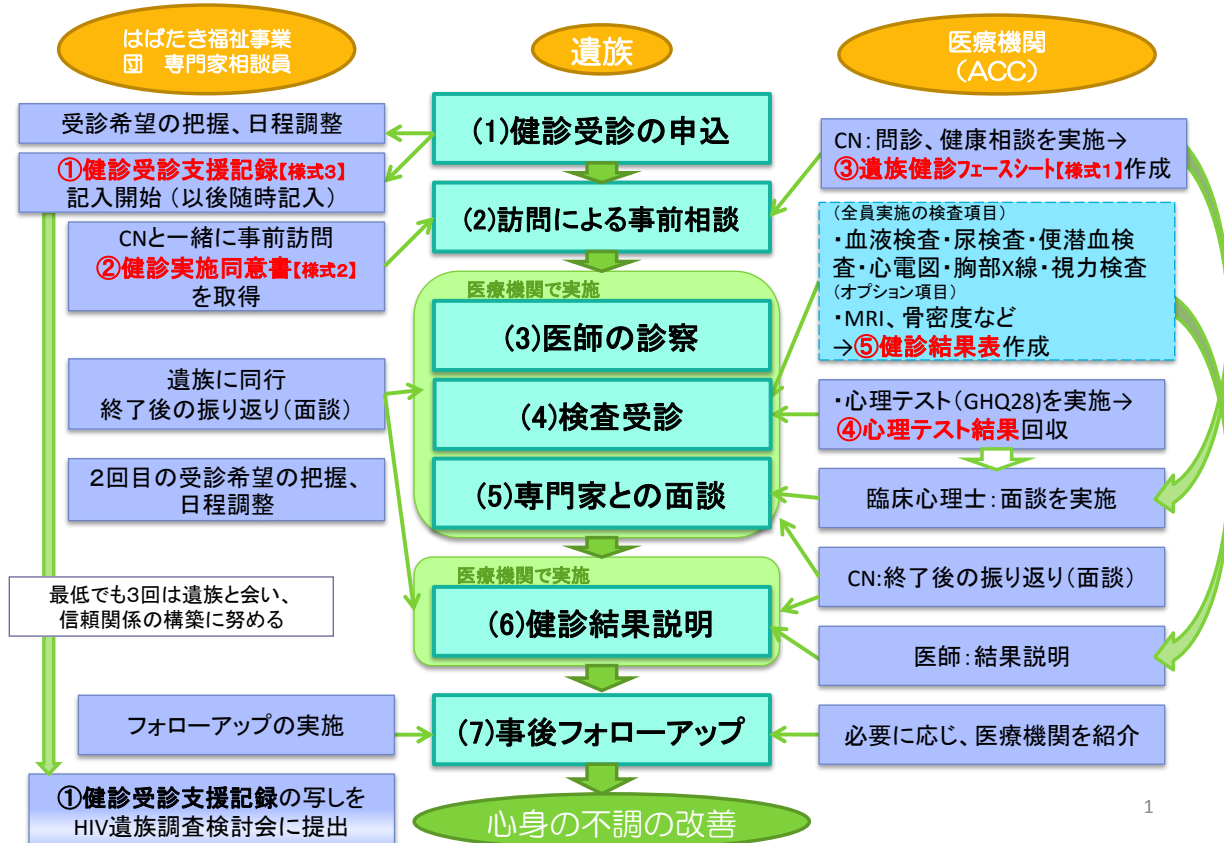
オ メンタルヘルス上の問題（健診受診前の自覚症状）

- ・ 特になし 10人
- ・ 時々落ち込むことがある 6人
- ・ 一人暮らしの不安や自分の身体の不安などがある 4人
- ・ うつ又は不眠傾向 4人

カ 身体面の診断結果

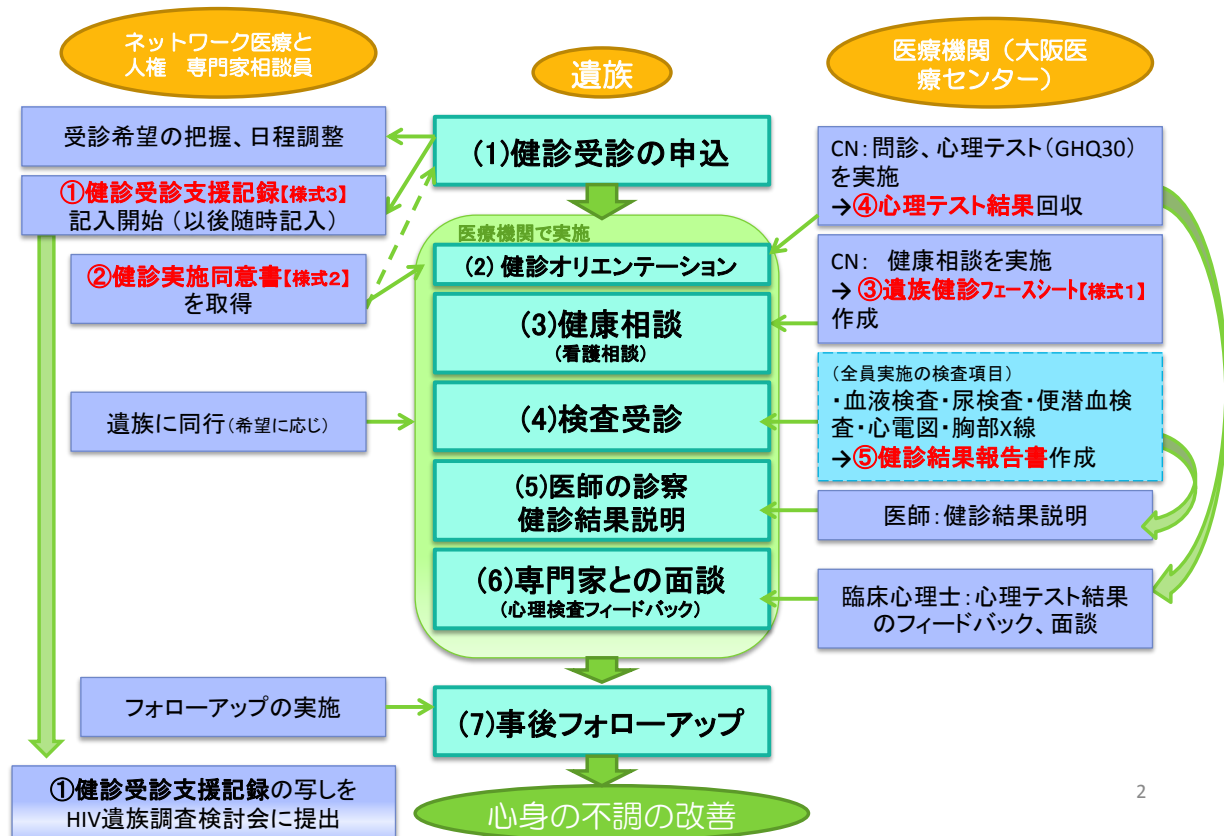
- ・ 特に異常なし 5人
- ・ 所見あり 11人
- ・ 不明 8人

【参考1－1】平成23年度 健診受診支援の流れ(東京)



1

【参考1－2】平成23年度 健診受診支援の流れ(大阪)



2

【参考2】平成23年度 健診受診支援事業の情報管理

①健診受診支援記録

原告団

【作成】健診受診の申し込み後、専門家相談員が随時記入
※検討会提出の際、原告団にて氏名等の個人情報を抹消
【東京:はばたき事務所内の鍵のかかるロッカーに保管(永年)】
【大阪:医療と人権事務所内の鍵のかかる保管庫に保管(10年間)】

写し提出

検討会(友愛福祉財団)

・検討会で利用後、検討会資料の一部として保管。
【友愛書庫に保管(10年間)】

②健診結果利用に関する同意書

原告団

【作成】事前説明時に、遺族から署名捺印を受ける

原本提出

検討会(友愛福祉財団)

・検討会資料の一部として保管
【友愛書庫に保管(10年間)】

③遺族健診フェースシート、④心理テスト結果

医療機関

【作成】③はCNが事前面談時に記入、④は遺族が記入→臨床心理士に引き継ぎ、健診時の面談に利用
【東京:ACCで電子カルテにスキャンして取り込み、原本は破棄(永年保管)】
【大阪:大阪医療センター臨床心理室に保管】

⑤健診結果表(東京)、健診結果報告書(大阪)

医療機関

【作成】健診結果を記入→健診結果説明時に利用
【東京:ACCで電子カルテにスキャンして取込み(永年保管)】
【大阪:健診データを大阪医療センター電子カルテ内に保管】

原本を交付

遺族

・各人で適宜保管

原告団(大阪)

・フォローアップ等に利用
【医療と人権事務所内の鍵のかかる保管庫に保管(10年間)】

大阪のみ、遺族の同意があれば
写し交付

【参考3－1】遺族健康診断受診支援記録一覧(東京)

受診医療機関	ACC	ACC	ACC
1. 受診者の属性	NO1	NO2	NO3
○性別	女	女	女
○年齢	60歳代	60歳代	60歳代
○現住所(地域ブロック)	関東	北海道・東北	関東
○被害者との関係	母	妻	母
2. 受診に至った経緯等	・はばたきから案内があったため。	・はばたきから案内があったため。 ・心の健康に不安あり。 ・薬書を理解してくれる病院のため。	・相談員から勧められた。 ・1人暮らしのため健康に不安がある。
○身体健康上の問題	・年1～2回繰り返す膀胱炎。	・特になし。	・肩の痛み、飛蚊症、胆石
○メンタルヘルス上の問題	特になし	特になし。夫のことは今さら誰かに話したいとは思わない。そっとしておいてほしい気持ちはある。	・時々、1人になると人生を振り返って落ち込むが、病的ではない。
3. 事前説明(健康相談)			
○インフォームド・コンセント実施者	相談員・CN	相談員・CN	相談員
○実施場所	受診者自宅	受診者自宅	医療機関内
○実施方法	訪問面談	訪問面談	面談
○説明状況・遺族の反応等	・事業概要等について説明。健診以外に何か目的があるのではないかと思われていた。	・概要等について説明。 ・身体面よりも、心理的な面に興味があり申し込んだ様子。	・概要等について説明。
○遺族の精神的な状況			
・遺族の訴えから	・現在はひどく落ち込むようなことはなくうまくコントロールしている。	・夫が亡くなってから、職場でいじめられ、実母が突然同居するなど、色々起こった。ストレスから突発性難聴になった。最近やっと落ち着いた。 ・周囲に薬害のことは話したくない。人があつまる場所では色々聞かれるので参加しないようにしている。	・離婚し、1人で子供3人を養うため、働き詰めだった。息子が入院しているときは看病できず、悔やんでいる。
・過去の治療歴から	—	—	—
4. 健康診断の実施			
○遺族の様子等(専門家相談員)	・緊張した様子。時に息子さんの昔話をしながら、淡々と受診。	・緊張した様子はないが、初めて受ける検査には、不安な様子だった。	・表情が硬く、緊張している様子。検査によって、肩の痛みが増すのではないかと不安。
○面談の実施状況(面談内容、遺族の様子等) ※専門家から把握可能な範囲で記入	・息子の墓参りに年に数行っている。現状「毎日楽しく過ごしている」。夫と2人暮らし。今年度で夫は定年、自分も退職する予定。亡くなった息子さんの生育歴を話し、流涙した。	・夫の件は克服している様子。1人の時に、他に近くに住む親族がいないので、この先、心配である。	・最初は緊張している様子だったが、少しずつ柔和な表情で話した。肩の痛みにより思うように動けずにいることもあり、亡くなった息子さんを思い、重ねて合わせて自責の念にかられる時があった。最近、体の不調を感じる事が多く、健診結果がやや不安なようである
○遺族の精神的な状況	亡くなった息子について自発的に語り、面接の最後には「普段このような話ができる人がいないので、今回話せてよかった」という。近隣の住民には息子について尋ねられるも「元気でやっています」と答えているという。	気丈な方。負けん気が強い様子。しかし、一人暮らしなので、緊急の時に何かあったら不安と語っていた。	①入眠困難、中途覚醒が続いている。 ②時々、当時を思い出して考え込んでしまう様子。 肩の痛みや現在の生活状況による影響が大きいようである。
5. 事後フォローアップ(相談員)			
○実施方法	電話	電話	電話
○フォローアップの実施状況、遺族の反応等	電話で健診後の生活が変化したか尋ねた。健診後、紹介された医療機関に行ったところ、今後も定期的に通院する必要がある病気が判明した。生活面では、より健康に気を遣い、運動や食事にも気を配るようになった。「何か心配事があった時にはばたきに電話しやすくなった」	・紹介状をもとに地元病院にかかったところ、異常なかった。ほっとしている。 ・変わらず体と心の健康に気を付けて生活している。	・紹介状をもとに地元の病院にかかった。現在治療中。 ・平成24年度もぜひ受けたいと思う。 ・肩の痛みはいくらかよくなった。
○他の支援サービス(医療、相談事業等)の利用について			
・受診後の相談支援、調整等の実施状況	・異常値ではなかったが、地元病院を2箇所紹介。	・異常はなかったが、地元病院を2箇所紹介。	・異常はなかったが、地元病院を1箇所紹介。
・関係機関の状況	—	—	—
・各種サービス等利用状況	遺族相談会参加、電話相談	電話相談	遺族相談会参加、電話相談
○今後必要な対応、注意すべき点	—	—	・一人暮らしのため、定期的に連絡
6. その他、気がついた点	・健診に同行し、時間を一緒に過ごすことで、利用者の受診支援者に対する拒否感や抵抗感が薄れていくのを感じた。利用者ー受診支援者間の関係を通して、はばたきや医療機関に対する思いにも変化があったように思う。 ・“病院嫌い”とご自身を評価し、普段なかなか病院へ足が向かない方であったが、今回の健診を契機に、定期的な通院の必要がある箇所が見つかり、自らの身体的な状態と向き合う機会となった。今後、ご本人がよりよい生活を送るための一助となったのではないかと。 ・利用者の感想：毎年受けられると良い。	・受診者からの感想では、「こういう機会に地元から出られたことで、良い気分転換になる。」、「事前訪問であらかじめ顔を合わせていたので、健診当日は安心して病院に来ることができた。」との回答があった。このことから、健診を契機として普段薬害のことを話していない地域から出るといっても、利用者のストレスを緩和する役割があると思った。 ・臨床心理士との面談では、始めは「今さら話すこともね」と言っていたが、終わってみると「改めて話してみて、良かった」と語った。 ・利用者の感想：一度利用した人もまた受けられるとよい。	利用者の感想：一度利用した人もまた受けられることができるようになることとよい。

受診医療機関	ACC	ACC	ACC
1. 受診者の属性	NO4	NO5	NO6
○性別	男	女	女
○年齢	60歳代	50歳代	60歳代
○現住所(地域ブロック)	北海道・東北	北海道・東北	中部
○被害者との関係	父	妻	母
2. 受診に至った経緯等	・身内に脳溢血で亡くなった者が2名いるのでMRIを受けたい。 ・はばたきから案内があった。相談員からも勧められた。 ・薬害のことを理解している病院だから。	・以前、MRI検査で引っかかったことがあり気になる。 ・HIV検査を受けたい。 ・何かあった時、ACCIにデータがあると安心だから。 ・薬害のことを理解している病院だから。 ・案内が送られてきたから。	・病院にあまり行ったことがない。検診をほとんど受けたことがない。 ・家族に大腸がんで亡くなった方が多いため。 ・はばたきから案内が送られてきたため ・薬害のことを理解している病院だから
○身体健康上の問題	・高血圧、不眠(薬を服用中)。	・特になし。	・時々胃痛、吐き気、めまい。 ・5～6年前からメニエル。 ・35歳頃甲状腺切除。昨年左肋骨骨折。
○メンタルヘルス上の問題	・人に聞かれたくないことを聞かれてズキンとすることがある。 ・仕事上でのストレスが多い。 ・精神科に通院。睡眠剤を処方。	・特になし。	・特になし
3. 事前説明(健康相談)			
○インフォームド・コンセント実施	相談員	相談員	相談員
○実施場所	受診者自宅周辺		医療機関内
○実施方法	訪問面談	電話	面談
○説明状況・遺族の反応等	・事業の概要等について説明。	・電話で事業概要等を説明。同意を得た。電話では不十分なため、後日、再度聞き取る。	・事業の概要等について説明。
○遺族の精神的な状況			
・遺族の訴えから	・仕事上の問題、同居の母の介護など不安があり不眠。亡くなった息子のことを振り返り、無念さを抱えている様子だった。	・亡くなった夫とは30年間連れ添った。原告団以外の人には薬害のことを誰にも話していないが、周囲からのサポートは多い。他愛もない会話の中に自然と夫の思い出話が交えられ、懐かしんでいるようだった。	・淡々と事実を話された。
・過去の治療歴から	特になし	特になし	特になし
4. 健康診断の実施			
○遺族の様子等(専門家相談員)	・午前中は、緊張した様子で口数も少ない。午後は趣味の話や家族の話を変え、時折笑顔を見せながら検診を受診。	・てきぱきとした口調でしゃべり、淡々と検査を受けていた。慣れている様子だった。また、他の遺族の近況などを尋ねていた。	・今まで受けた事のない検査ばかりで、「体験してみる」といったように前向きに検査を受けていた。
○面談の実施状況(面談内容、遺族の様子等) ※専門家から把握可能な範囲で記入	・亡くなった長男、弟に関する心情を述べる。さらに勤務先の倒産、東日本震災など共通して「突然の出来事」が中心。時折涙する。応答はやや遅延気味。声量中程度。抑揚は乏しい。	・主に、生活歴・現在の職業について述べる。困っていることは特になし。中肉中背で、声量は中程度。穏息抑揚のある話し方、視線は合わせる。笑顔は頻回に観察される。	・柔和な笑顔で最近二週間の忙しさ、初孫の様子などを話される。その後、はばたきの活動や長男、次男の小学生時代を振り返り、母親としての心情を表す場面も見られた。風邪が未だに治らないと話し、少し咳き込むことはあったが、特に話しづらそうな様子や倦怠感を疑わせる様子はなかった。
○遺族の精神的な状況	・「突然の出来事」に関連して抑うつ的な状態を呈している印象(悲嘆反応?)。不眠は、内科処方睡眠剤で少しずつ回復の様子。食事や趣味のドライブ等により活動性意欲等は保たれている。現在休職中ではあるが、休養や趣味等を通じ心理的苦痛の軽減を図ることも有効と考えられる。	・日常生活では、仕事(大学教員)、趣味(ヨガ・太極拳)は楽しむ事が出来ている様子。 ・4人同胞がおり、また兄弟姉妹と頻回に飲みに行くようであり、家族・知人からサポートを得ながら過ごしているようである。 ・面談上、精神的な状況について問題は観察されない。	・ここ数日、大きなライフイベント等が重なり、疲れている様子。普段はそうではないと話しており、面接上の観察でも一時的なものとしてとらえることが可能である。相談活動も経験が長く、特に負担ではないようである。
5. 事後フォローアップ(相談員)			
○実施方法	(後日実施予定)	(後日実施予定)	(後日実施予定)
○フォローアップの実施状況、遺族の反応等	—	—	—
○他の支援サービス(医療、相談事業等)の利用について			
・受診後の相談支援、調整等の実施状況	・現在通院中の病院に対し、紹介状を2通書いた。	—	—
・関係機関の状況	—	—	—
・各種サービス等利用状況	遺族相談会参加、電話相談	遺族相談会参加	遺族相談会参加
○今後必要な対応、注意すべき点	・精神的な面で、心配されるところがあるため、定期的に連絡する。	—	—
6. その他、気がついた点	・これまでの利用者は検査に1日かかり、検診後に疲れや痛みをうったえる方もいた。1泊2日にするなど余裕を持ったスケジュールを立てられるとよい。 ・耳鳴りがあり、健診とは別に国立国際医療研究センター 耳鼻科の診療を希望され、受診することになった。	・電話による事前説明を実施したが、電話では時間が足りず、ゆっくりとお話を聞く事が難しいと感じた。利用者の精神的な状況や周りの状況を知るためには、やはり相手の顔をみて話を聞く事が重要であると感じた。 ・利用者の感想:「いつもは職場の健診、人間ドックを年2回受けているが、健診項目が限定されているため、今回はそれ以外の項目を受ける事ができたので大変よかった。」	・臨床心理士との面談では「私のような年代の者にとってはカウンセリングといわれてもあまりピンとこず、慣れていない部分があるので話しづらいと感じた」と語っていた。 ・改善点として、「朝から夜までの一日ではなく、遠くから来やすいように、午後から次の日の午前中というプランがあってもいいのではないか?」という指摘を受けた。

受診医療機関	ACC	ACC
1. 受診者の属性	N07	N08
○性別	女	女
○年齢	60歳代	60歳代
○現住所(地域ブロック)	中部	関東
○被害者との関係	母	母
2. 受診に至った経緯等	・病院にあまり行ったことがない。 ・健診を受けても結果を聞きに行っていない。 ・相談員に勧められた。 ・薬害のことを理解している病院だから ・体の健康に不安がある。	・凝固因子量が知りたい。 ・家族から勧められた。 ・昨年、市の健康診断を受けなかったため。
○身体健康上の問題	・目の疲れ、糖尿、生体肝移植のドナー。	・右脚部の静脈瘤、アレルギー、風邪をひくと気管支炎になりやすい。
○メンタルヘルス上の問題	・特になし	・H3に自立神経失調症と診断された。(服薬はなし)
3. 事前説明(健康相談)		
○インフォームド・コンセント実施	相談員	相談員
○実施場所	受診者自宅	医療機関内
○実施方法	訪問面談	面談
○説明状況・遺族の反応	・事業の概要等について説明。	・事業の概要等について説明。同意を得た。
○遺族の精神的な状況		
・遺族の訴えから	・自宅までの移動中も亡くなった息子が遊んでいた場所を通ると話していた。息子を死に追いやった自責の念を抱いている。暴力的な夫とは離婚した。	・亡くなった息子の洋服を着て来訪したり、仏壇に布団をぴったりと寄せて寝ていたり、現在も息子のことを心の支えとして生活している様子。ご自身の心情とよく向き合っている様子がうかがえ、時折、気持ちを率直に語られる。
・過去の治療歴から	特になし	・H3より夫方の母親と同居を始め、ストレスのため、発疹など体の不調があった。その後、母親は亡くなり、症状も治まった。
4. 健康診断の実施		
○遺族の様子等(専門家相談員)	—	・イベント前日は緊張で眠れない事が多く、この日も前日よく眠れなかった様子。受けたことのない検査も多く、緊張しているようだったが、検査を受けるたび表情が和らぎ、自身も「検査を受ける毎に安心してきた」と語っていた。
○面談の実施状況(面談内容、遺族の様子等) ※専門家から把握可能な範囲で記入	・長男の移植に踏み切った決断を現在も後悔している様子で、これが主なトピックであった。現在震災や原発関連の報道が多く、薬害の問題、受けた悲しみを重ね合わせてしまっている。泣けてきたり、怒りを感じる事が多い様子だった。	・診察と検査を複数受け、自分を大事にすることについて考えた笑顔で話される。次男への思い、長男の病状、孫の誕生、近年深刻になっている近隣トラブル等が話題に上る。時折涙ぐむ様子も見られるが、朗らかに言葉数多く早口で話していることが多かった。
○遺族の精神的な状況	・抑うつ気分、不眠、食欲低下、思考抑制等聴取した限りでは抑うつ症状は認めない。長男のことを思い出さずきつかけがあると泣いてしまう。震災により思い出が増えている面もあり、友人にも話せない部分があるため、少し想いを表出する場があると良いかもしれない。	・次男の側にいたいという思いから、次男の洋服を身に着けている等話されたが、少しずつ前向きに受容してきている様子(死にたい思いには繋がっていない)。 ・近隣からのいたずら電話にて夜中目が覚める事があるが、十分に睡眠はとれている様子。
5. 事後フォローアップ(相談員)		
○実施方法	(後日実施予定)	(後日実施予定)
○フォローアップの実施状況、遺族の反応等	—	—
○他の支援サービス(医療、相談事業等)の利用について	—	—
・受診後の相談支援、調整等の実施状況	—	—
・関係機関の状況	—	—
・各種サービス等利用状況	・遺族相談会参加、電話相談	—
○今後必要な対応、注意すべき点	・思い出を表出する場として、電話や訪問などを考える。	・これまでの関わりが浅いため、これから定期的に連絡を取る。
6. その他、気がついた点	・利用者の感想:一度に詳しい検査を受けることができてよかった。	・「一般病院で検査すると、“胸のキス”はどうしたのか?”と聞かれるので、経過を知っている病院で検査してもらえる方が安心する」と語っていた。

【参考3-2】遺族健康診断受診支援記録一覧(大阪)

受診医療機関	大阪医療センター	大阪医療センター	大阪医療センター
1. 受診者の属性	NO1	NO2	NO3
○性別	女	女	女
○年齢	60歳代	60歳代	60歳代
○現住所(地域ブロック)	中部	中国	九州
○被害者との関係	母	母	母
2. 受診に至った経緯等	・地元では聞きづらいので、健診で持病も含め相談したい。	・案内を見て受診しようと思った。(相)	・案内を見て受診しようと思った。(相)
○身体健康上の問題	・持病への不安があり医師に相談したい。(専)	・地元のかかりつけ医から高脂血症薬を飲むよう言われている。	・今後に備えるため
○メンタルヘルス上の問題	・一人暮らしで頼る親族もいない。持病もあり日頃不安を抱えている。(相)	・自分では「うつ」と思っていないが、落ち込む日もあり、その繰り返しの日々である。(相)	・趣味などで日頃は忙しいが、1人息子であったため、ふと淋しさにおそわれる時がある。(相)
3. 事前説明(健康相談)			
○インフォームド・コンセント実施者	看護師	看護師	看護師
○実施場所	医療機関内	医療機関内	医療機関内
○実施方法	面談	面談	面談
○説明状況・遺族の反応等	—	・とてもわかりやすく親切にして頂けた。(専)	・気遣いがあってうれしかった。事情を知っている安心感があった。(相)
○遺族の精神的な状況			
・遺族の訴えから	・身体面でのかかりつけ医はいるが、聞きづらさと不安を抱えたまま受診している様子。(専)	—	—
・過去の治療歴から	—	—	—
4. 健康診断の実施			
○遺族の様子等(専門家相談員)	・緊張している様子であり話されない。(専)	・物静かな様子で、他の人へ気を遣っていた。(専)	・最初は緊張していたが、他の受診者と話しながら笑顔が見られた。(専)
○面談の実施状況(面談内容、遺族の様子等) ※専門家から把握可能な範囲で記入	・面談後、「今後困ったことがあったら電話してもよいか」と確認され、相談員で対応出来る範囲ならいつでもかけてくださいと伝えた。	・今は夫婦2人だが、今後1人になったときの不安等の話があった。	・面談では思っていることを話せた。良く聞いてもらえた。 ・病院に行くとき血圧が上がりがやすく、今回も同じだった
○遺族の精神的な状況	—	—	—
5. 事後フォローアップ(相談員)			
○実施方法	電話	電話	電話
○フォローアップの実施状況、遺族の反応等	・カウンセリングを受けた先生に色々話しができてよかった。しばらく元気で頑張れると喜んでた。	・健診の結果、高脂血症の数値が高く、薬の服用を勧められた。 ・地元の医療機関でも言われていたが飲んでいなかった。 ・カウンセリングの先生もやさしかった。 ・少し「うつ」の症状があると言われた。また受診したい。	・色々聞いてもらえて良かったと喜んで帰宅した。
○他の支援サービス(医療、相談事業等)の利用について			
・受診後の相談支援、調整等の実施状況	—	—	—
・関係機関の状況	—	—	—
・各種サービス等利用状況	遺族交流会、電話相談、相談メール	遺族交流会へ参加	・遺族交流会に参加。楽しみにしている。
○今後必要な対応、注意すべき点	・定期的に電話やメールで心身の状況を伺い、フォローしていくことが大事。	・時々電話を入れ、体調等を伺うことが大事。	—
6. その他、気がついた点	—	—	—

受診医療機関	大阪医療センター	大阪医療センター	大阪医療センター
1. 受診者の属性	NO4	NO5	NO6
○性別	女	女	女
○年齢	80歳代	60歳代	70歳代
○現住所(地域ブロック)	九州	近畿	近畿
○被害者との関係	母	母	母
2. 受診に至った経緯等	・長年、身体・精神面で気になっており、年齢的にも自分の健康を把握しておきたい。(相)	・案内を見て受診しようと思った。(相)	・健診案内を見て、カウンセリングも受けられるので受診しようと思った。(相)
○身体健康上の問題	・高齢になり、骨粗そう症の薬を飲んでいる。	・普段から健康には関心があり、気をつけている。	・6年前に胃の手術をしている。
○メンタルヘルス上の問題	・一人暮らしの不安を抱え生活している。	家族のことで心配。	・一人暮らしの不安を抱えている。
3. 事前説明(健康相談)			
○インフォームド・コンセント	看護師	看護師	看護師
○実施場所	医療機関内	医療機関内	医療機関内
○実施方法	面談	面談	面談
○説明状況・遺族の反応等	・分かりやすく説明してもらえた。(専)	—	—
○遺族の精神的な状況	—	—	—
・遺族の訴えから	—	—	—
・過去の治療歴から	—	—	—
4. 健康診断の実施			
○遺族の様子等(専門家相談員)	・遺族相談員が同行してくれたので安心して受診した様子だった。(専)	・他の受診者に気を使いながら話しかけていた。(専)	・落ち着いた様子だった。
○面談の実施状況(面談内容、遺族の様子等) ※専門家から把握可能な範囲で記入	・普段話せないことも話せたので良かった。 ・交流会とは違った安心感があった。 ・カウンセリングを受けたことがきっかけで少し考えが変わるかなと思った。 ・話を聞いてもらえて時間があっという間に過ぎた。	・再検査があり、十分な面接時間が取れなかったため、2回に分けてカウンセリングを行うことになった。	・初めて中性脂肪が多いと言われた。少し心配したが、医師からコーヒーに入れたフレッシュの影響もあるかもと言われホッとした。
○遺族の精神的な状況	—	—	—
5. 事後フォローアップ(相談員)			
○実施方法	電話	電話	訪問
○フォローアップの実施状況、遺族の反応等	・今回の健診は話を聞いてもらってほんとうに良かった。 ・健診結果を頂いたので、かかりつけ医に持参し、今後の体調管理に備えたい。	・健診結果に問題があり、CTを受けたが大丈夫だったので良かった。 ・CT検査を受けたため、カウンセリングを12月に受けることになった。 ・健診はそれぞれの所で親切に接してもらい良かった。	・健診時は体の調子は良かったが、その後眠れない夜があり、薬を服用している。
○他の支援サービス(医療、相談、受診後の相談支援、調整等)の実施状況	—	・カウンセリングの実施	電話相談
・関係機関の状況	—	—	—
・各種サービス等利用状況	・遺族交流会に参加。電話相談	・遺族交流会	・遺族交流会
○今後必要な対応、注意すべき点	・一人暮らしのため定期的に電話などで伺うことが大事。	—	—
6. その他、気がついた点	—	—	・院内で色々な場所に移動したので、足の悪い人には厳しい。・病院に着くまで駅から迷った。(道案内を出した方がよい)(専)

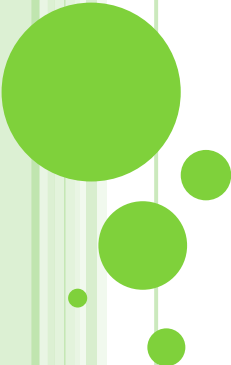
受診医療機関	大阪医療センター	大阪医療センター	大阪医療センター
1. 受診者の属性	N07	N08	N09
○性別	女	男	女
○年齢	60歳代	60歳代	60歳代
○現住所(地域ブロック)	近畿	中部	中部
○被害者との関係	母	父	母
2. 受診に至った経緯等	・身体面で気になる所があり受診してみようと思った。(専)	・気になる所はないが、よい機会なので。(専)	・交流会で説明を受け、よい機会と思い受診した。(相)
○身体健康上の問題	・一般的な健康が気になっていた。	・特になし	・定期的検査で数値が引っかかるものがある。
○メンタルヘルス上の問題	・長年うつ傾向	・特になし	・不安はずっとある。ふと子供のことを思い出す。心が折れそうな時もある。
3. 事前説明(健康相談)			
○インフォームド・コンセント	看護師	看護師	看護師
○実施場所	医療機関内	大阪医療センター	大阪医療センター
○実施方法	面談	面談	面談
○説明状況・遺族の反応等	・とても丁寧に説明してもらい良かった。	・分かりやすかった。	・分かりやすく、安心できた。
○遺族の精神的な状況			
・遺族の訴えから	—	—	—
・過去の治療歴から	—	—	—
4. 健康診断の実施			
○遺族の様子等(専門家相談員)	・同行者なし。	—	・息子のことを思い出す。
○面談の実施状況(面談内容、遺族の様子等) ※専門家から把握可能な範囲で記入	・検査は非常にスムーズにストレスなく受けられた。 ・場所柄、定期的に通いにくい機会があれば受診したい。	・カウンセラーに色々教えてもらい、話しも聞いてもらえてすっきりした。	—
○遺族の精神的な状況	—	—	—
5. 事後フォローアップ(相談員)			
○実施方法	訪問	電話	電話
○フォローアップの実施状況、遺族の反応等	・健診は、病院でとても良くして頂いたので、他の人にも勧めたい。・身体のことになりつつ健診を受けてなかったので、よい機会だった。・再検査を勧められた。検査データを頂いたので地元の医療機関に行こうと思う。	・特になし。いろいろ聞いてもらえて良かった。	・大阪医療センターは息子が入院していたところなので、本当は来たくなかった。・カウンセリングはよく聞いてくれて良かった。
○他の支援サービス(医療、相談、受診後の相談支援、調整等)の実施状況	メール交換	—	—
・関係機関の状況	—	—	—
・各種サービス等利用状況	・遺族交流会	・遺族交流会	—
○今後必要な対応、注意すべき点	・検査結果についてフォローしていく	—	・精神的に不安定なところもあり、定期的に電話を入れる。
6. その他、気がついた点	・検査データに「HIV遺族健診」と記載があったので、その場で削除を申し出た。(専)	—	—

受診医療機関	大阪医療センター	大阪医療センター	大阪医療センター
1. 受診者の属性	NO10	NO11	NO12
○性別	男	女	女
○年齢	60歳代	60歳代	70歳代
○現住所(地域ブロック)	中部	中部	関東
○被害者との関係	父	母	姉妹
2. 受診に至った経緯等	・検診案内と交流会で説明を受け、受診しようと思った。(相)	・検診案内と交流会で説明を受け、受診しようと思った。(相)	・遺族として状況を知っている人に話を聞いてほしかった。(専)
○身体健康上の問題	・普段の健康が気になっている。	・一般的な健康状態が気になっていた。	・一般的な健康状態が気になっていた。
○メンタルヘルス上の問題	・特に困ったことはない。	・不眠傾向がある。	・うつ傾向、不安を抱えている。
3. 事前説明(健康相談)			
○インフォームド・コンセント	看護師	看護師	看護師
○実施場所	大阪医療センター	大阪医療センター	大阪医療センター
○実施方法	面談	面談	面談
○説明状況・遺族の反応等	・手厚く対応してくれた。	・孫のことが気になっていた。不眠について心療内科を勧められ、専門機関の受診を決めた。	—
○遺族の精神的な状況			
・遺族の訴えから	—	—	—
・過去の治療歴から	—	—	—
4. 健康診断の実施			
○遺族の様子等(専門家相談員)	・ご夫婦で受診されたので、初めての病院でも安心されていた。	・本人の生き方について、色々話された。	・遺族相談員と一緒に受診していたため安心していた様子。
○面談の実施状況(面談内容、遺族の様子等) ※専門家から把握可能な範囲で記入	・本人の人生のテーマについて話されていた様子。	・メンタル面で気になったことを話していくと、思ってもいないところで原因に気づけて驚いていた。	・今まで頑張ってきたことについて、カウンセラーと話し合えた。
○遺族の精神的な状況	—	—	・話せる家族がいないので、事情を理解してもらっている人に話してスッとできた様子。
5. 事後フォローアップ(相談員)			
○実施方法	面談	面談	面談
○フォローアップの実施状況、遺族の反応等	・健診がスムーズに出来てよかったとにこやかに対応された。	・親戚に不幸があり、健診翌日に行かなくてはならない。健診に来られて良かった。	・膝の手術をしているので、院内を歩いて回るのに疲れた様子。 ・病院のスタッフがとても良くしてくれて、受診して良かった。
○他の支援サービス(医療、相談)			
・受診後の相談支援、調整等の実施状況	—	・3月4日に脳梗塞で入院との連絡あり。	・かかりつけ医に健診の結果を持参し、今後の治療について相談。
・関係機関の状況	—	—	—
・各種サービス等利用状況	・遺族交流会	・遺族交流会	・遺族交流会
○今後必要な対応、注意すべき点	—	・脳梗塞は2度目のこと。地元での医療機関にて十分な治療をされるよう勧める。	・定期的に体調伺いの電話を入れる。
6. その他、気がついた点	—	・持病に対するアドバイスなどが大事。	—

受診医療機関	大阪医療センター	大阪医療センター	大阪医療センター
1. 受診者の属性	NO13	NO14	NO15
○性別	女	女	男
○年齢	50歳代	70歳代	60歳代
○現住所(地域ブロック)	近畿	近畿	北海道・東北
○被害者との関係	母	妻	兄弟
2. 受診に至った経緯等	・今まで健診を受ける機会がなかったの で、お知らせを見て受診を決めた。	・健診は受けたことはあるが、腫瘍マー カーはしたことがなく、気になったので。 (専)	・勧められたものもあるが、自身の病気の 他、病気にかかっていないか調べたかつ た。(専)
○身体健康上の問題	・喘息の薬を服用し、コントロールしてい る。	・特にないが現在の健康状態を把握した い。	・自身の病気が気になっている。
○メンタルヘルス上の問題	・体調のこともありしんどかった。	・特になし	・気力が続かないと思っている。
3. 事前説明(健康相談)			
○インフォームド・コンセント	看護師	看護師	看護師
○実施場所	大阪医療センター	大阪医療センター	大阪医療センター
○実施方法	面談	面談	面談
○説明状況・遺族の反応等	・良くわかった。	・質問ができた良かった。	—
○遺族の精神的な状況			
・遺族の訴えから	・精神面では落ち込むこともある。	—	—
・過去の治療歴から	・喘息や貧血等持病有り。	・医療センターで既に治療を受けている。	—
4. 健康診断の実施			
○遺族の様子等(専門家 相談員)	・高齢な遺族と一緒に受診したため、気遣 いしていた。	・同行者の看護師に対して申し訳ない気 持ちはあったが、良くしてもらえ嬉しかつ た。	・緊張されている様子。
○面談の実施状況(面談内 容、遺族の様子等) ※専門家から把握可能な 範囲で記入	・普段話せないことが話せた。	・質問紙に沿って話していくことができた。	・話せて良かったと思う。
○遺族の精神的な状況	・じっくり自らの話しが出来た様子。	・精神的な状況についてカウンセラーに話 すことができた様子。(専)	—
5. 事後フォローアップ(相談員)			
○実施方法	面談	面談	面談
○フォローアップの実施状 況、遺族の反応等	・カウンセリングではなくなった息子のこ とを色々話せ、カウンセラーもそれを受け 止めてくれうれしかった。	—	・久しぶりに旧知の相談員と会うことが でき、嬉しそうであった。出不精気味の妻を 連れ出すことができ、気分転換の機会に もなったことに感謝しているとのこと。 ・夫婦二人だけでは大阪までこられなかつ たが、付き添いをしてもらい助かった。
○他の支援サービス(医療、相談 事業等)の利用について			
・受診後の相談支援、調整 等の実施状況	・かかりつけ医に健診の結果を持参し、今 後の治療について相談。	—	メール交換
・関係機関の状況	—	—	—
・各種サービス等利用状況	・遺族交流会	・医療センター相談窓口、交流会	・遺族交流会
○今後必要な対応、注意 すべき点	—	・本人からの要望あり:具体的な日時や流 れなどは、特に正確に伝えておくことが必 要。	・遺族でも患者でもあるので、体調につい て定期的に何う事が大事。
6. その他、気がついた点	・心電図の担当は出来れば、女性が良 かった。	・会計をする順番がややこしかった。 ・検便をいつ提出したらいいのか分からな かった。	—

受診医療機関	大阪医療センター
1. 受診者の属性	NO16
○性別	女
○年齢	60歳代
○現住所(地域ブロック)	北海道・東北
○被害者との関係	姉妹
2. 受診に至った経緯等	・夫に勧められて受診を決めた。(専)
○身体健康上の問題	・普段の生活で一般的な健康は気になっている。仕事が忙しくて休みが取れず、なかなか身体を休められない。
○メンタルヘルス上の問題	・特に気になる所はない気がするが、仕事で多忙な為精神的ストレスがたまっているかもしれない。
3. 事前説明(健康相談)	
○インフォームド・コンセント	看護師
○実施場所	大阪医療センター
○実施方法	面談
○説明状況・遺族の反応等	—
○遺族の精神的な状況	
・ 遺族の訴えから	—
・ 過去の治療歴から	—
4. 健康診断の実施	
○遺族の様子等(専門家相談員)	・同行者とはぼつりぼつりと話されるが、夫婦ではあまり会話がなかったようである。
○面談の実施状況(面談内容、遺族の様子等) ※専門家から把握可能な範囲で記入	・気軽に話せた様子。
○遺族の精神的な状況	—
5. 事後フォローアップ(相談員)	
○実施方法	面談
○フォローアップの実施状況、遺族の反応等	・夫婦一緒に受診でき安心して受けられた様子。 ・カウンセラーが心情を気遣ってくれたことが良かったようである。
○他の支援サービス(医療、相談)	
・ 受診後の相談支援、調整等の実施状況	—
・ 関係機関の状況	—
・ 各種サービス等利用状況	・遺族交流会
○今後必要な対応、注意すべき点	—
6. その他、気がついた点	—

(案)

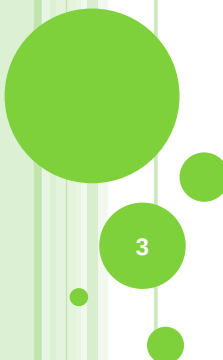


HIV感染被害者遺族のための 健康診断受診支援 ガイドライン

平成24年5月

目 次

- ・ 健診受診支援の目的と概要
- ・ 受診支援者（専門家相談員等）の役割（総論）
- ・ 事前相談
- ・ 健診実施時の面談
- ・ 情報管理
- ・ 様式1 遺族面談フェースシート
- ・ 様式2 インフォームド・コンセント様式
- ・ 様式3 健診受診支援記録



健診受診支援の目的と概要

3

健診受診支援の目的

- ・ 22年度実施「HIV感染被害者遺族実態調査」の結果
 - ・ 遺族の身体面・精神面の健康度が全般に低い
 - ・ HIV感染被害のことに触れられたくないため医療機関を受診しにくい場合がある



遺族への支援体制が整備された医療機関と連携
専門家（臨床心理士，精神保健福祉士等）によるヘルプ



遺族が安心して健康診断を受けられる体制を整える

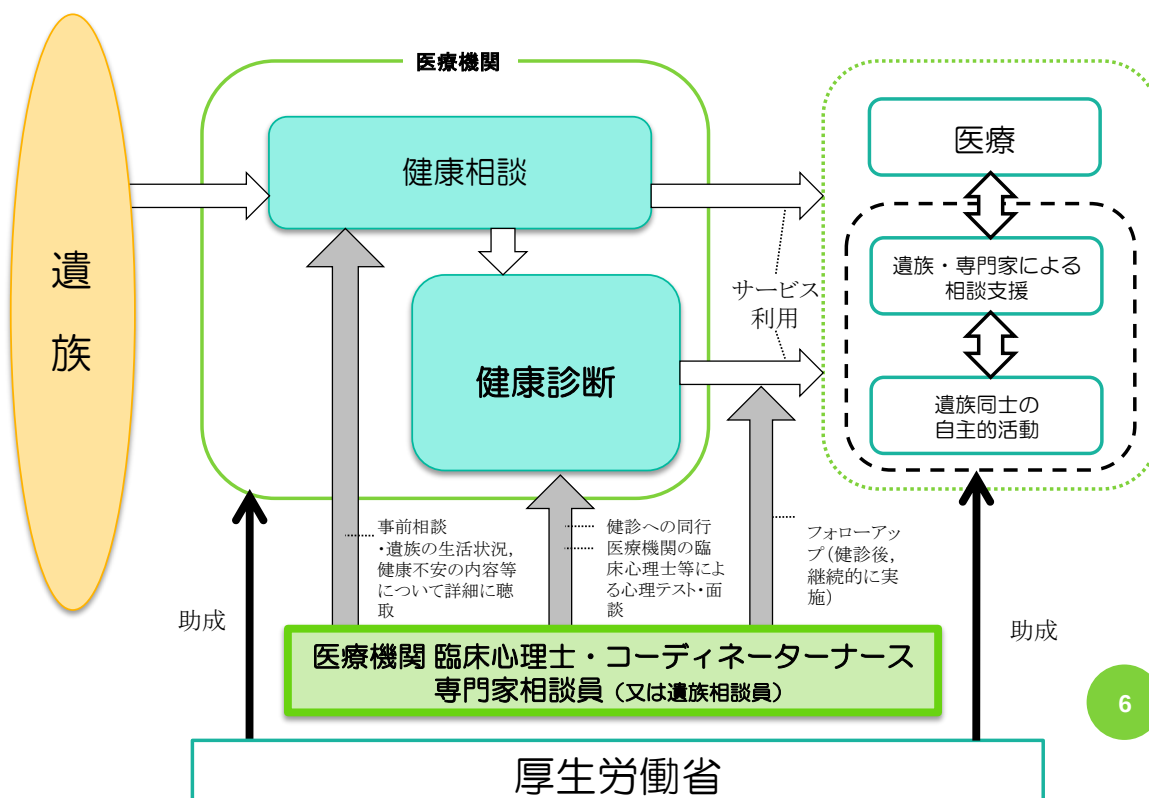
4

健診受診支援の概要

- (1) 対象者
HIV感染被害者遺族（被害者の配偶者，子，父母，兄弟姉妹）
- (2) 健診の実施場所
（東京）独立行政法人国立国際医療研究センター病院 エイズ治療・研究開発センター（ACC）
（大阪）独立行政法人国立病院機構 大阪医療センター
- (3) 健診の内容
身体面の健診に，専門家による心理テスト及び面談を付加。
- (4) 受診支援の流れ → p.6～7 参照
- (5) 受診支援を行う専門家（受診支援者）
臨床心理士，精神保健福祉士，コーディネーターナース等
- (6) 健診受診者の費用負担
健診費用及び受診者本人の交通費は友愛福祉財団から補助

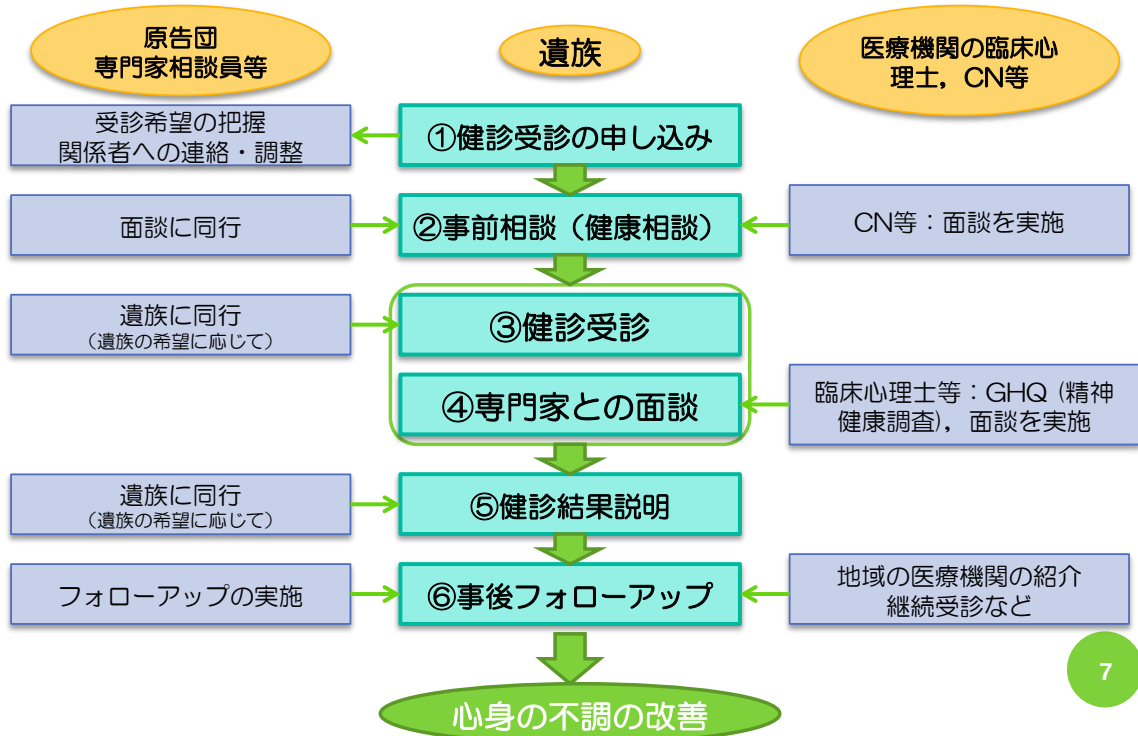
5

健診受診支援の全体像

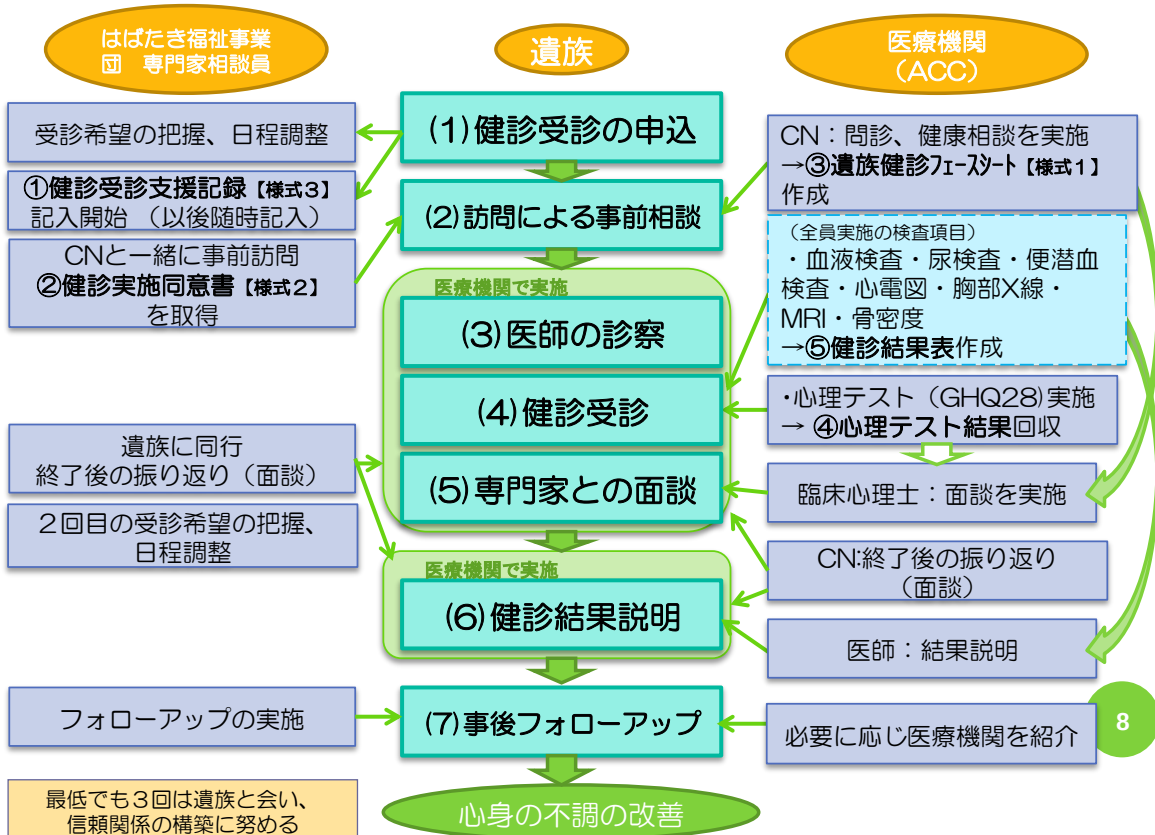


6

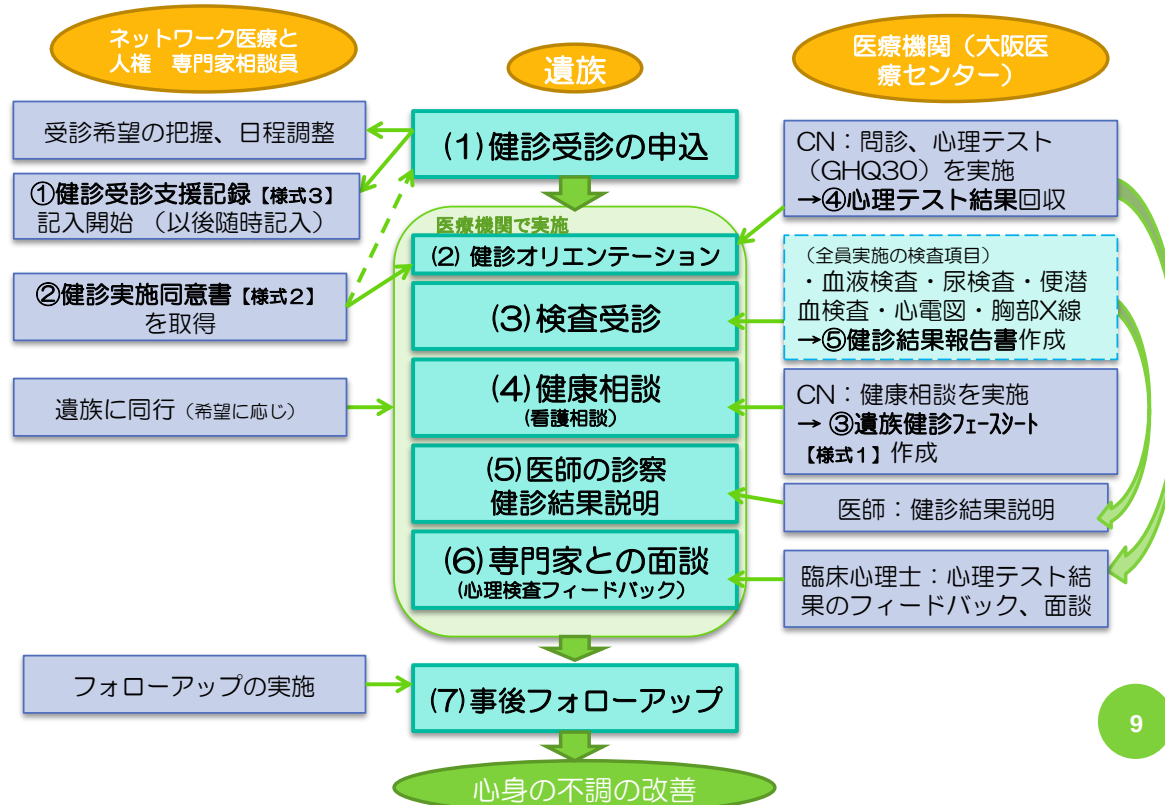
健診受診支援の流れ（モデル例）



【参考1】平成23年度 健診受診支援の流れ（東京）



【参考2】平成23年度 健診受診支援の流れ（大阪）



9

受診支援者（専門家相談員等）の役割（総論）

10

精神保健福祉実践としての健診受診支援

健診受診支援は、なにを行うべきか

- ①誰の為の援助かを分析する
本人の為の受診支援か
家族の為の受診支援か を分析する
- ②本人が現在の状況とどう向き合っているか
家族がどう向き合っているか を分析する
- ③受診支援時に生じたニーズを明らかにする
治療費
家族との関係、職場・地域との関係
- ④受診後の生活を当事者とともにイメージする
病い（疾患ではない）との共同生活をえがく
- ⑤緊急性の判断を適切に行う
その事例は、危機性を持つか否か

11

受診支援者の役割

- ・ 健診は、ニーズ把握の為にいきます。
- ・ 健診は、今後の遺族の生活を考える為にいきます。

ニーズ把握は、いまある福祉サービスの活用を可能とします ⇒ ころ・からだ、生活等のアセスメント

ニーズ把握は、地域生活の課題を明確にします
⇒ 薬害HIVに関するスティグマの把握と啓発
既存の相談機関等の課題の明確化

12

事前相談（健康相談）

事前相談（健康相談）

事前相談とは

- ・事前相談はファーストコンタクトとしての役割を持ちます。

遺族とは

- ・治療を目的とした薬剤の投与により、血友病の家族の喪失を体験した人です。

支援を拒否，あるいは抵抗を持つ遺族

支援を拒否，あるいは抵抗を持つ遺族の思い

- ①薬害HIVに関するスティグマが存在し，地域に密着した支援機関に支援を求めると，家族のプライバシーが明らかになるという不安
- ②死に至った原因である薬害と，精神科医療を含む医療や今回の健診を同一視
- ③家族の死を受容することが困難であり，自分のことはどうでもよいと考える支援抑制

15

事前相談に求められるもの

侵襲的な介入をおこなわない

- ・事前相談にあたっては，遺族の今までの暮らしや思いに十分配慮して進めることが必要です。
- ・なぜこの健診が必要かを十分に説明し，遺族が納得できる中で行うことが求められます。

16

事前相談に求められるもの

情報の意図的操作を行わない

- ・事前相談者には客観性が求められます。質的情報の操作は量的情報の操作と比較し、安易に行われることがあります。情報は、あくまでも客観的に行われなければなりません。
- ・この為、情報の一部は、アセスメント時に誰もが共通して使用する言語であるジェノグラム、エコマップ等を活用する

17

受診支援者の役割

第1段階：事例概要把握

- 1) フェースシートの作成 →様式1
- 2) 受診への希望や不安の聴取
- 3) 健診会場への同行

遺族が原告団でケアを受けている場合は、現在ケアしている専門相談員（遺族相談員）と出会い、必要となる情報の聴取を行う

18

フェースシートの作成

- ・受診支援者にとっては初回相談者である
⇒ ここで作成するフェースシートは、インテーク面接票を兼ねる

医療福祉場面におけるインテーク面接票に求められる項目

- ① 主訴（現在の心理・生活・身体上の訴え）
- ② ジェノグラム（遺族の原家族：親，兄弟までに及び）
- ③ エコマップ（血友病の家族と関わりのあった人・機関）
- ④ 自由記述

遺族の病いとの歴史を半構造化インタビューを活用し聞き取る

19

フェースシート作成の基本的な考え方

1. フェースシートの作成前に健診結果の利用に関する同意書を遺族が理解できるように説明し，署名と押印を受ける。

⇒ インフォームド・コンセント文書の作成 →様式2

2. 受診支援者と遺族は，初回の出会いであり，信頼関係の獲得を目指すことが必要。

専門的な援助プロセスに入る前に必要不可欠なものとしてフェースシートがあるが，遺族が答えを拒否する場合は強要しない。

3. 基本的な情報収集と援助者（機関・施設）からの情報提供（提供可能な援助の内容，利用要件など）を行いつつ，遺族の概要を把握することが主要な作業

20

フェイスシート作成に関して

[illegible]

フェイスシートの個人情報は、受診支援者のみが利用する。

生活歴の聴取に関しては、次の点に留意する。

1. これは、あくまでも生活歴であり、生育史ではない。この為、遺族がどのように生活してきたのかを聞き取る。
2. 遺族心理との関わりや遺族となつてからの生活の変貌について聞き取ることが重要。
 - ① 家族の関係に何らかの変化
 - ② 仕事の関係で何らかの変化
 - ③ 地域との関わりで何らかの変化
 - ④ 家族歴について 両親、配偶者、子供、
兄妹の疾病の有無、死亡者の死因と年齢

健診実施時の面談

健診実施時の面談の注意点

健診実施時の面談は、受診結果についての不安を除去することを目的とするものである。

1. HIV遺族の場合には、慢性的な疾患や障害のように終結する事がない悲哀や悲嘆が常に内面に存在することが考えられる。この際、健診を受け、その反応として、自分も何らかの病気だったらという思いから他者や自己に対し攻撃的になることがある。
 2. 喪失反応の再起が考えられる。家族が治療を受けた場で健診を受けた等の要因での反応である。これがストレスとして働き引き金となることがある。
 3. おそらく、喪失感、失望、落胆、恐れなどの感情を持っている。
- この場合、この時点では、まず傾聴することが必要

23

情報管理

24

健診受診支援における情報管理

①健診受診支援記録（様式3）

原告団

【作成】健診受診の申込み後、専門家相談員が随時記入
※財団提出の際、原告団にて氏名等の個人情報を抹消
【事務所内の鍵のかかる書庫に保管】

写し
提出

友愛福祉財団

・事業実施資料の一部として保管
【事務所内の書庫に保管（10年間）】

②健診結果利用に関する同意書（様式2）

原告団

【作成】事前説明時に、遺族から署名捺印を受ける

原本提出

友愛福祉財団

・事業実施資料の一部として保管
【事務所内の書庫に保管（10年間）】

③遺族健診フェースシート（様式1），④心理テスト結果

医療機関

【作成】③はCNが事前面談時に記入，④は遺族が記入
→臨床心理士に引き継ぎ，健診時の面談に利用 【医療機関にて保管】

⑤健診結果報告

医療機関

【作成】健診結果を記入→健診結果説明時に利用
【医療機関の電子カルテ内に保管】

原本又は
写し交付

遺族

・各人で適宜保管

25

遺族健診フェースシート

ID		同伴受診者氏名	
受付年月日： 年 月 日			
本人氏名：	性別：男／女	生年月日 年 月 日	
本人住所：		電話／FAX／携帯	
担当者氏名			
健診同行者氏名		健診同行者連絡先	
診断名		既往症	
医療保険区分：国保()健保(家族)、自費、生活保護() 福祉事務所：担当 CW)			
手帳所持： 級		年金：障害 () 級、 老齢、福祉	
障害程度区分：区分 (認定日 年 月 日)		自立支援医療費： 有(認定日：年 月 日)	
家族構成 ジェノグラム			
氏名	続柄	年齢	備考

治療歴

サービス利用歴

対応

健診受診支援事業について

— 健診結果に関する同意書 —

この健診受診支援事業は、HIV 感染被害者遺族の方の身体面・精神面の健康度の改善を目的として実施するものです、この実施にあたって以下のことを説明し、この件に関して了解される時にはサイン及び捺印をお願いします。

1. 目的

この健診は、健康状態の実態把握により、HIV 感染被害者遺族の方の身体面・精神面の健康度の改善を目的とするものです。

2. 方法

別添【健診受診支援の流れ】参照

3. 場所 (いずれかに○)

- ・独立行政法人 国立国際医療研究センター病院 エイズ治療・研究開発センター (ACC)
- ・独立行政法人 国立病院機構 大阪医療センター

4. 健診の内容

- ・身体面の検査
- ・臨床心理士による心理テスト及び面談

5. 守秘

- ・この健診支援事業で得られた個人情報、遺族ご本人への支援及び遺族の健康状態の実態把握以外の目的では使用しません。
- ・本事業による受診状況等については、個人を特定されない形で、事業実施主体である(財)友愛福祉財団に伝えられることがあります。

説明者

担当

印

以上の説明について了解しました。

年

月

日

氏名

印

遺族健康診断受診支援記録

1. 受診者氏名：

性別：（ 男 ・ 女 ） 年齢： 歳

現住所： （都道府県）

被害者との関係： 被害者の（ 父母 ・ 配偶者 ・ 子 ・ 兄弟姉妹 ）

2. 受診に至った経緯等

主訴：身体健康上の問題：

メンタルヘルス上の問題：

3. 事前説明（健康相談）の実施状況

☐ インフォームド・コンセント実施者

☐ 実施日時： 月 日

☐ 実施場所

☐ 実施方法：（ 電話 ・ 訪問 ・ 医療機関での面談 ）

☐ 説明状況、遺族の反応等：

☐ 遺族の精神的な状況について（気づいた点、対応状況）：

遺族の訴えから

遺族の過去の治療歴から

4. 健康診断の実施

☐ 実施日時： 月 日

☐ 健診受診同行時の遺族の様子等：

○面談の実施状況（面談内容、遺族の様子等） ＊専門家から把握可能な範囲内で記入

- ・ GHQ28 得点
 - ・ 身体的症状
 - ・ 不安と不眠
 - ・ 社会的活動障害
 - ・ うつ傾向

○遺族の精神的な状況について（気づいた点、対応状況）

5 事後フォローアップ

○実施日時： 月 日

○実施方法： （ 電話 ・ 訪問 ・ 医療機関での面談 ）

○フォローアップの実施状況、遺族の反応等：

○他の支援サービス（医療、相談事業等）の利用について

- ・ 受診後の相談支援、調整等の実施状況
- ・ 関係機関の状況
- ・ 各種サービス等利用状況

○今後必要な対応、注意すべき点等

6 その他、気がついた点